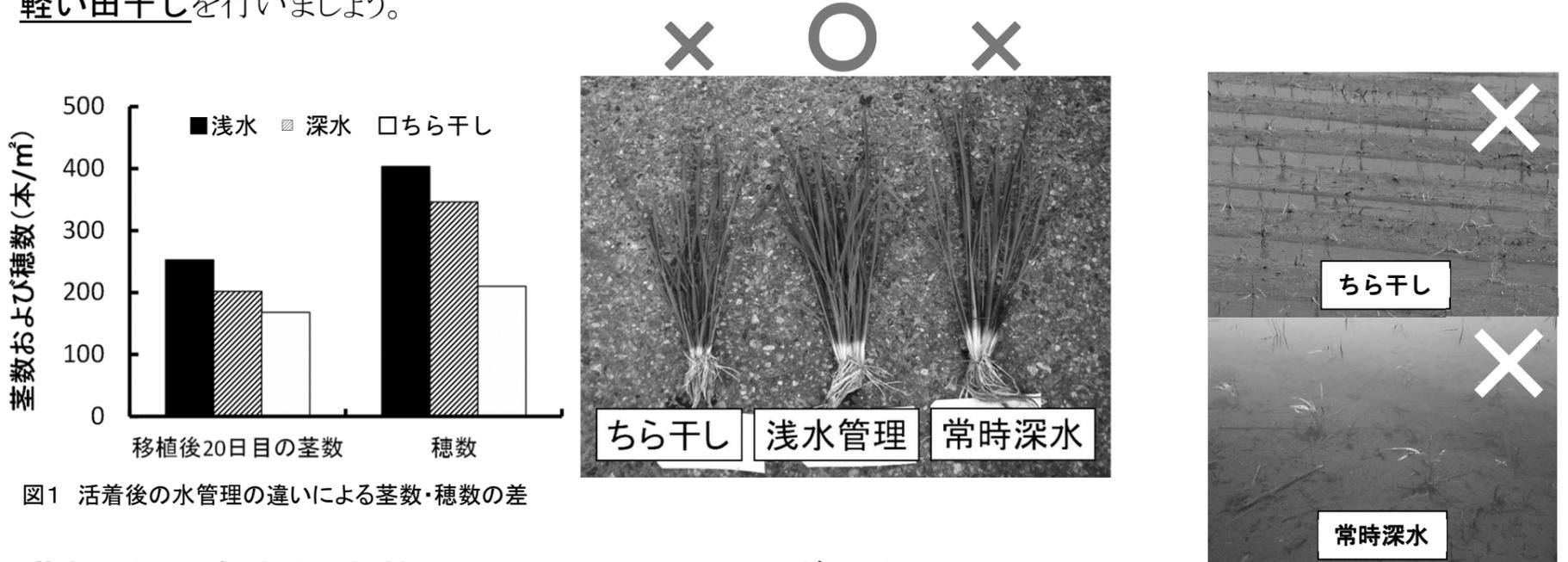


1 活着後の水管理～浅水管理の徹底で初期茎数を確保する！～

- (1) 田植後の稲が活着した頃、ちら干しや深水にしている圃場が散見されます。
水深2～3cmの浅水管理とし、圃場の水温、地温を上昇させ、分けつの発生を促進しましょう。
- (2) 入水は早朝か夕方以降に短時間で行い、日中は止水で管理しましょう。
- (3) 低温時や強風時はやや深水とし、稲を保護しましょう。
- (4) 中干しまでの水管理は浅水としますが、土からガスが発生したり藻が発生した場合は、水の入替えや軽い田干しを行いましょう。



2 溝掘りの確実な実施～中干しまでに必ず行う！～

(1) 溝掘りの開始時期

中干しを田植後1か月までに開始するため、溝掘りは田植後3週間頃(図2)を目安に必ず実施しましょう！

(2) 溝掘りの効果

- ・圃場への入・排水が短時間で均一に行え、水管理がしやすくなります。
- ・圃場全体が同じように乾き、収穫作業がしやすくなります。
- ・稲収穫後の大麦播種等に向けた耕起作業がしやすくなります。

(3) 溝掘りのポイント

- ① 溝を掘る2～3日前に落水し、土がやや硬くなった状態(土壌表面が乾く程度)にしましょう。
- ② 溝掘り作業直前に、ひたひた水程度まで再度入水してから掘りましょう(作業後は落水して下さい)。
- ③ 設置の目安は5m(15条)に1本程度とし、圃場の周囲と中央の1本は特にしっかり掘りましょう。
- ④ 水がいつも溜まっているところや乾きにくいところは、溝を多く掘りましょう。
- ⑤ 溝は深く掘り下げた水尻に確実に連結して下さい。
- ⑥ 溝が埋まった場合は再度掘り直しましょう。



3 中干しは田植後1か月までに開始 ～適正な生育量へ誘導～

(1) 中干しの開始時期

中干しは、開始時期が重要です。
稲が8葉期頃となる田植後1か月までに開始しましょう。

この時期は根の伸長が最も活発で、田を干すことで根の発生が多くなり、その後の生育や登熟が健全に進みます。

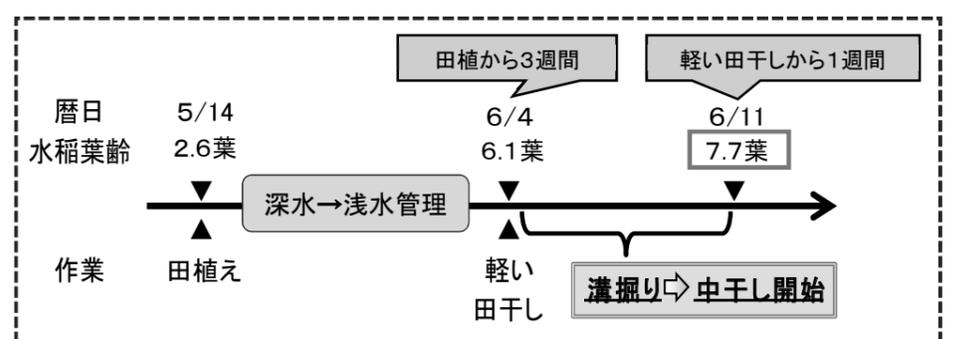


図2 溝掘りと中干し実施のイメージ

注) 水稻葉齢: H22～R元県生育観測ほこしヒカリの平均値

(2) 中干しの効果

適期中干し実施により、下記のような効果が得られます。

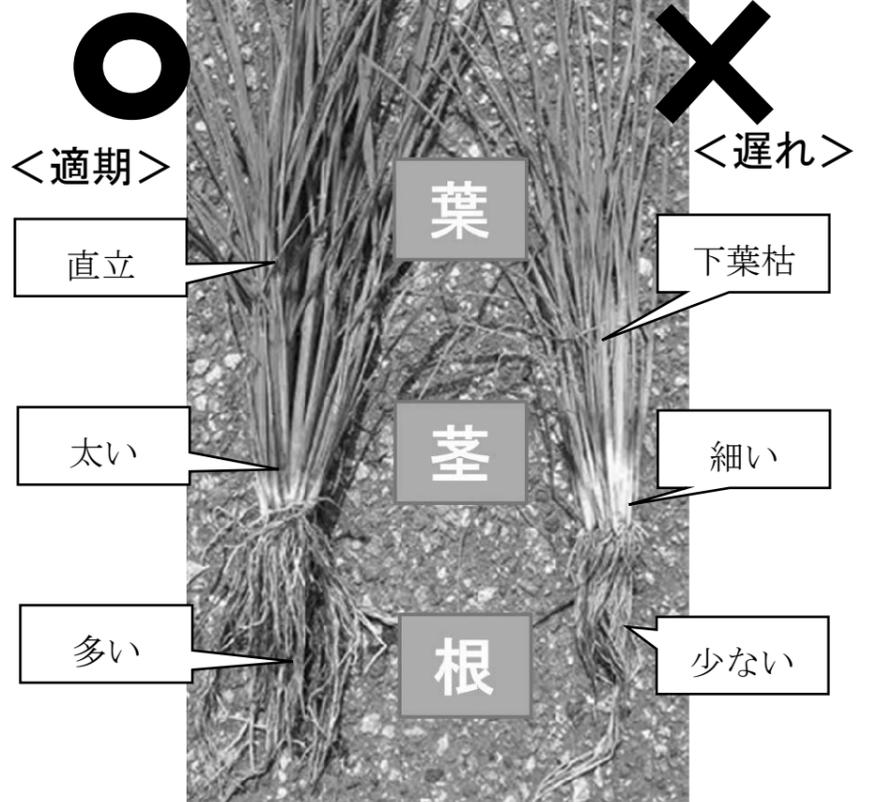
- 発根の促進、稲体の健全化
- 土壌内の有毒ガスの除去
- 過剰分けつの発生抑制
- 適正な葉色への誘導
- 収穫時に機械作業に支障が生じない地耐力の確保



すいすい〜

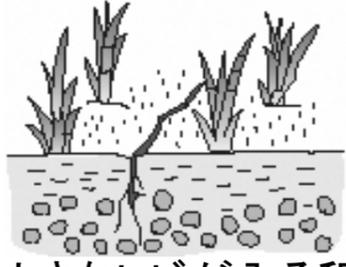


JA アルプス水稲重点技術対策「根づくり」を進める、要の管理作業です！
適期を逃さず、適切な程度で実施してください！



(3) 中干しのポイント

土壌条件等に応じて中干しの程度を調整しましょう。

圃場条件 管理		乾きやすい圃場 (砂質田・黒ボク等)	乾きにくい圃場 (半湿田・粘質田)
		目安	3日間程度
中干し	仕上げ程度	 ・小さなヒビが入る程度	 ・足が少し沈む程度



適切な中干し後の田面状態

中干しの終了は、圃場の中央部でくるぶしが軽く沈む程度を目安とします！

※大きなヒビが入るほど強く干すと、根を痛めたり、急激な葉色低下を招く場合があるので注意しましょう。

4 中期除草剤の適正使用～散布にあたっては、使用基準を遵守！～

- (1) 雑草の発生状況を確認し、遅れず散布しましょう。
- (2) 散布前に、水の入れ替えを行いましょ。
- (3) 散布後5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水しないで下さい。

表 中期除草剤

除草剤名	対象雑草	10a 当たり 使用量	使用時期	使用回数	使用上の注意点
ブイゴール SM 1キロ粒剤	水田1年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ 他	1kg	移植後 20～30日 /ビ 3.5 葉期まで (収穫 60 日前まで)	1回	・処理時期に低温(15℃以下)や高温(30℃以上)が予想される場合は、使用を避ける。
サンパンチ1キロ粒剤		1kg	移植後 15～30日 /ビ 3.0 葉期まで (収穫 60 日前まで)	1回	・イネ4葉期以前の使用は避ける。
テッケン1キロ粒剤		1kg	移植後 15～35日 /ビ 4.0 葉期まで (収穫 60 日前まで)	1回	・散布後に多量の降雨が予想される場合は使用を避ける。
テッケンジャンボ		50g× 10袋	移植後 15～35日 /ビ 4.0 葉期まで (収穫60日前まで)	1回	・藻が多発している圃場では拡散が不十分となり、部分的な薬害や効果不足の可能性があるので、使用を避ける。

※後期除草剤に関する情報は、次回の営農情報に記載いたします。